

単元名：

「日本の水産業」

(全 6 時間扱い中 第 1 時)

授業日時 2021 年 11 月 8 日 (月) 第 3 校時

授業学級 5 年 2 組

授業会場 5 年 2 組教室

授 業 者

指 導 者

(1) 主眼 (授業の手立て & ねらい)

(○○の子ども達が) ○○の場面で、○○を通して、○○を□□することができる／できるようになる。

スーパーのチラシから北海道産の魚が多く並んでいることに気づいた子ども達が、日本のどのような場所で水産物の水揚げ量が多いのかを考える場面で、日本の主な漁港の水揚げ量の図からわかることを読み取ることを通して、暖流や寒流などの海流や大陸だなど漁獲量の関係に気づき、漁獲量が多くなる場所の特徴を説明することができる。

(2) 展開

	学習活動	予想される子どもの反応	「授業者の主な発問」・※留意点・【教材】	時間
導 入	1. 水産業って何？	○魚釣ったり、貝を取ったりしてる ○水産業ってさ、水がつくから水の周りでやってる事じゃないの ○海とかの水の周りで生き物とかを採る産業だと思います ○北海道産のものが多かったと思います。 ○海外のものも少しあった ○北海道だと思う！ ○僕は青森県だと思うな ○えー、どこが多かったか教えてくれないの	「今日から水産業っていう範囲に入っていきたいんだけど、水産業ってどんなことしてるんだろう？」 水産業とはどんなものか理解を深める 「この前みんなスーパーのチラシを使ってどんなものがどこでとれているかを日本地図に貼ってもらったんだけど、お魚系のものってどんなところで多かったのか覚えてる？」 ※スーパーの魚売り場の写真を見せ、魚の産地がどこだと思うか聞いてみる	3
	【学習問題】漁獲量が多い場所はどのようなところなのだろうか		※長野市のスーパーで売っている魚の産地別割合のグラフ (先生調べ) の答えを隠したものを見せる	7
	2. 予想する	○スーパーのチラシからだ北海道とかじゃない？ ○ズワイガニなら北陸のほうが有名じゃないですか ○海のあるところならどこでも同じくらいとれるんじゃないの？	みんなはどんなところで水産物の水揚げ量が多いと思う？	3

	【学習課題】日本の主な漁港の水揚げ量の図やからわかることを読み取ろう			
展開	3. どの漁港で漁獲量が多いのか読み取る	○銚子が多い ○北海道はイワシとかタラが多くとれている ○焼津や枕崎ではカツオやマグロがよくとれそう ○カニは境というところでたくさんとれる ○東北のあたりもそこそことれる	「まずは一人でどんな漁港で魚などが多く取れているのか、どんな魚が取れているのかなどジャムボードに書き込んでいきましょう」 【各地の水産業の図・Chromebook・Jamboard】 ※机間指導を行い、やることが分かっていない子や難しそうにしている子に声をかける ※ある程度時間がたったら近くの人と意見を交換する どんなところで多かったか各班一人発表してもらい日本地図に記入する	15
	4. 読み取った内容から漁獲量が多い漁港の近くは大陸棚があり、海流も流れていることに気づく	○銚子の近くには黒潮があるよ ○北海道のほうは親潮って書いてある ○日本海側には対馬海流があります ○日本の周りには大陸だながある	「どうしてこれらの漁港の近くでは魚が多くとれるんだろう？海とか地形に何か特徴があるのかな？」 「漁獲量が多い漁港の近くには海流があることや、大陸だなという地形が関係していそうだね。」	5
	5. 海流などの用語の整理し、まとめる	ワークシートに用語についての説明を記入する	暖流…水温が周りよりも高い水の流れ 寒流…水温が周りよりも低い水の流れ 大陸棚…陸の周りの深さが 200m くらいまでの深さの海	5
終末	6. まとめ	○海流のある所や大陸だなの近くで魚がよくとれる	○漁獲量が多いところはどのようなところか〔海流〕と〔大陸だな〕という言葉を使って説明してみましょう 【本時の評価（評価する対象）】 海流や大陸棚の自然条件を生かして魚を獲ていることを理解することができる。【ワークシート】	5